

川辺高校同窓会報

神戈陵の下に



同窓会長
前 野 政 美

会員の皆様に感謝して
同窓会会員の皆様には御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より同窓会運営には深い御理解と、御協力を賜りまして誠にありがとうございます。今後とも、会員の皆様のさらなる御指導と御協力をよろしくお願い申し上げます。

同窓会会則では、「会員相互の親睦と、会員が一致協力して母校の発展

と向上を援助することを目指す」とあります。菊野前同窓会長から同窓会長をお引き受けいたしました。それから四年になります。それ以来、会長として何度となく各地区の同窓会総会に出席させていただきました。会員の皆様の母校を思う情熱にいつも元気をいただいたおられますとともに、感謝いたしております。この情熱は、青春時代の三年間（旧制中の先輩方は五年間）を神戈陵の下で過ごされた思い出が皆さんきつと強いせいだろうと思われまふ。本当に同窓生はありがたいものです。

先輩方とのふれあい

四月二十六日は母校の誕生日です。今年で卒業生も一万九千二百六名になりました。今年の創立記念講演は、前鹿児島市教育委員会教育長で、県立鶴丸高等学校長や県教育次長などを歴任され、鹿児島県教育界に長年携わってきた下尾穂氏（旧制川辺中第四十三回、昭和二十二年卒）にお願いしました。「学んだ神戈陵魂」という演題で、生徒の祖父や祖母の時代を振り返って、伝統を受け継いでもらいたい気持ち切々と話されました。十六年度の神戈陵塾は昨年の十一月五日（金）、「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」の一

発行
川辺高校同窓会本部
発行所
〒897-0221
鹿児島県川辺郡川辺町田部田
TEL 0993-56-1151
FAX 0993-56-1152
県立川辺高等学校

環として地域社会に広く公開して行われました。東京・大阪・福岡より一名ずつ、鹿児島市より三名、地元より四名の計十名が、一・二年生の十クラスに入って熱弁をふるいました。各界で活躍する先輩諸氏の物の見方や考え方、生き方に触れることにより、生徒自ら進路意識を高揚させ学習意欲の向上を図る目的で行われています。

本校には長い歴史と伝統があり、日本各地で活躍している同窓生が多くいることを誇りに思っています。先生方や保護者の方々も諸先輩達の若き日の出来事、人生観、世界観等の深さ、厳しさ溢れる講演に感銘をうけています。

思いは一つ

私たち同窓会の思いは母校の限らない発展と、同窓生の強い連携、さらなる母校の活性化への願いであります。かつて文

化・学業の中心であった旧制四中を蘇らそうと学校も同窓会も一生懸命努力中であります。

鹿児島では公立高校の再編整備計画が着々と進み、川辺学区では笠沙高校が三年生を残すのみになりました。県内各地でも高校の統廃合が進んでいます。

このように教育環境が激しく変革・多様化していく中で、校長先生はじめ諸先生方の熱意のもと、素質ある生徒がさらに磨きをかけられ、一般に難関校と目される大学に挑戦するだけの力を持つまでに育ってきております。

川辺高等学校の英才教育と人材確保に寄与するために、優れた資質、能力と高い志をもつ中学生の入学が一段と促進されることを願い、平成一六年度から「同窓会育英奨学制度」を発足させました。この財源は同窓会特別基金を充てております。（十

六年度決算書・十七年度予算書を御覧ください。

平成二年に学校創立九十周年を記念して設立された「財団法人神戈陵教育振興会」は、母校の教育振興を切に願ひ、高い目標を掲げ、努力を続け、

優れた成果を示している生徒に育英奨学金を給付し、顕彰・激励する事業を継続しております。財源には、平成十五年九月以降の各地区同窓会や各地区の機関誌で、三〇〇万円を目標として財団法人神戈陵教育振興会への寄付金をお願いして集めた浄財を充てております。

(給付につきましては、毎年六月に神戈陵教育振興会評議員会並びに理事会を開催して承認を得て

います。)

終わりに

二一世紀に母校が生き抜くためには、個に応じた教育、個を生かす評価、発展的補充的な学習、少人数クラスの編成、習熟

度授業の研究と実践、生徒の得意・長所を伸ばす教育、開かれた魅力ある

学校、地域に密着した特徴ある学校をいかにして築けるかにかかっているということでありま

す。

後輩達が自律・端正・積極・公德・誠実・努力・忍耐・協調等は勿論のこと、更に、ぼっけもん・豪放磊落にして緻密・高い目標への挑戦心、目標達成のために「初心」を忘れることなく、食らいついたら最後までではない意志の強さをもった生徒に育つて欲しいものです。

学校創立百周年を記念して建立された神戈陵尚学舎は、それぞれの目標を達成するため、いつまでも生徒から愛され活用される場所であって欲しいと思います。

最後に、同窓生の皆様の御健康と御発展をお祈り申し上げます。

意気軒昂!

燃える川辺高校



校長 西 元 辰 宏

平成十七年度川辺高校

同窓会総会並びに各支部及び各職場神戈陵会総会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、同窓会の皆様には、神戈陵教育振興会育英奨学事業や同窓会育英奨学生事業、開校記念講演会等の講師の派遣をはじめ、物心両面から本校活性化のために多

大の御支援・御協力を賜りまして本当にありがとうございます。衷心より厚く御礼を申し上げます。お陰様をもちまして、川辺高校は日々元気に頑張っております。

十六年度は「進路目標の達成を通して望ましい自己実現を果たす学校の

創造」を合い言葉に、生徒の進路目標達成を目指

して、学力向上、豊かな人間性の育成に取り組んでまいりました。その結果、鹿児島大学の十名合

格をはじめ、九州大学、名古屋工業大学等を含む

国公立大学三十八名の合格、公務員試験四名合格等の進路実績を上げまし

た。部活動ではなぎなた部の国体・インターハイ出場、吹奏楽団アンサン

ブルの九州大会上位入賞、女子テニス部県大会四位入賞等がありました。さ

らに、川辺少年少女青の俳句大会や新聞感想文コンクール

の学校賞受賞、生徒会の「川辺道路メダカ救出隊」(日経コンストラクション)二月十一日号で全国に紹介)や「川辺二日市」等への自主的参

加による地域行事への貢献、あるいは施設や病院訪問等のボランティア活

動など、教育活動の幅広い領域で大きな成果を収めることができました。

生徒・職員一丸となつた川辺高校の取組の成果は、生徒たちのあいさつや服装、交通マナー等にも表れ、地域社会に爽やかな話題を提供するとともに、川辺高校の評価を高めているのではないかと思います。地域のある学習塾の資料では、「川辺高校は厳しく統制のとれた教育の行き届いた素晴らしい学校」と、有り難い評価も頂きました。これもひとえに皆様方の温かい力添えのおかげと心から感謝申し上げます。

十七年度は、地域中学校卒業生が減少する中で募集定員一杯の二百名の新入生を迎えることができました。本年度も地域社会の皆様

たちが充実した学業生活を送り、将来は、母校川辺高校での学びを基盤に、高い志をもって地域社会や国家のために、あるいは世界のために、誇りと自信をもって活躍できる有為な人材として成長することを願いながら、教育活動を力強く展開してまいります。

私どもの教育の精神的拠り所は、社会力・人間力の育成を厳しく説く校訓「自律、端正、積極、公德」の精神であり、修養の日々の指針は、「弘毅正大の心、競進優越を期す。不断刺激を新たにし、忠実奮って自学せん。」の川辺高校伝統の同窓会の座右の銘であります。生徒たちにこの伝統の神戈陵精神を継承させるとともに、大いに発揮させてまいりたいと考えております。まさに、意気軒昂、燃える川辺高校で本年度も頑張ります。同窓会の皆様の御指導・御支

援をいただきますようお願い申し上げます。
最後に、前橋松造（昭二十五年卒）さんの第三十一回南日本出版文化賞の受賞をお祝い申し上げます。

東京同窓会

峯元 政公
(昭和46年卒)

ますとともに、川辺高校同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍、御多幸を御祈念申し上げます。

第二十九回総会が、平成十七年六月十八日土曜日、九段会館において前野政美会長・西元辰宏校長・長野守雄教諭及び恩師の慶田拓磨先生（昭和三十二年〜三十八年の勤務で担当教科は世界史）並びに薩南工業高校関東支部・関東さつま川辺会の方々をお招きし、開催されました。今年の年度幹事である三十七年卒及び四十七年卒のご尽力で総勢二〇三名の参加により盛大に執り行いました。総会に先駆けて行われます恒例の特別講演は、川辺町役場企画商工課長

の亀甲俊博氏（昭和四十七年卒）による、演題「川辺町におけるダイオキシンの挑戦」でした。遠く東京の地にあつて、川辺町がダイオキシンのついて一生懸命取り組み、将来は川辺町に帰って暮らしてみたいと感じた会員も多かったと思います。総会では、役員改選において会長が中釜作治氏（昭和二十四年卒）から本田雄郎氏（二十七年卒）へバトンタッチされました。懇親会では、平成十三年卒で大学四年生の近藤大輔氏と田辺省吾氏に

就職活動で多忙な日々を送っているという近況のあいさつを頂き、川野重任名誉会長の九四歳とは思えない元気な発声による乾杯の音頭の後、イベントは、武蔵野音大在学

の下園智子さん（平成十四年卒）のファゴットによる演奏会、関東さつま南の会の三〇名によるおはら節等の踊り、東京鹿兒島往復航空券・神宮球場の観戦券等が当たるじ



やんけん大会が催され、芋焼酎・とりさし・つけあげ等に舌鼓を打ちながらあつという間に時間が過ぎてしまいました。

川口幹夫顧問の声高々な万歳三唱で締めくくられ、来年の三十周年に元気な姿で再会することを誓い散会となりました。

帰りには、一〇年ぶりの発行となった当会の会員名簿の購入に長蛇の列ができました。来年は、発足三〇年という節目の年に、第一回目の総会の会場であったアルカディア市ヶ谷(旧私学会館)において、十八年六月二十四日土曜日に開催する予定です。

当会の一年間の活動は次の通りです。

一、会報誌「神戈陵」を昨年十一月に発行しました。

二、総会の前日、本部前野会長・西元校長達と当会役員で交流会を開

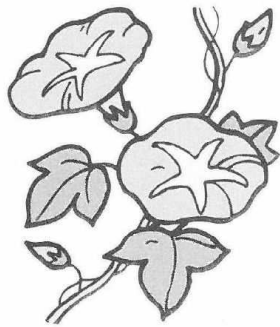
催しました。

三、母校の卒業生に記念品(ボールペン)を贈呈しました。

四、第五十九回国体なごなた競技会に母校なごなた部の三人が出場しましたので応援にいききました。

五、薩南工業高校関東支部・関東さつま川辺会・関東知覧会の総会に出席し交流を深めました。

六、当会会員名簿を制作し本年六月に発行しました。



陵寿会は今年も賑やかに開催

世話人 大倉野 貞俊
(昭和25年卒)

今年の陵寿会は三月十二日、例年通り三州倶楽部で第二十七回総会を開催しました。故郷からは来賓として、母校の大脇友治教頭・長野守雄教諭、本部同窓会の森田剛副会長をお迎えしました。

今年は趣向を変えまして、昨年、田口精一会員からご提案の「語ろう会」を午前一〇時から開き、参加者三二人が「故郷活性化論」と「教育問題と日本文化論」という二つのテーマに分かれて、白熱の議論を交しました。ご来賓の森田さんは「故郷活性化論」に、母校の先生方は「教育問題と日本文化論」に参加され、それぞれに専門的な立場から貴重なご意見を語って頂きました。

正午から参加者が七三名となり総会に移りまし

た。中釜作治東京同窓会長の挨拶に続き、大脇教頭先生が母校の活気ある現況と将来への展望を、また、森田副会長からは母校への協力体制の強化について語って頂きました。ここで、大先輩(九三

歳)の川野重任先生(文化功労者・東大名誉教授)がお立ちになり、「前橋兄弟の文学作品に対して『戦時挺身熱闘の記録顕彰の碑』を建てようではないか」と、気迫溢れる提案をなされました。この双子の兄弟(共に昭和二十五年卒)は戦時中数奇な人生を送り、その実録を基に、兄・松造氏は「金十丸、奄美の英雄伝説」を、弟竹之氏は「三角兵舎の月」を出版しました。これはあの過酷悲

惨な戦争体験を後世に語り告ぐ貴重なドキュメン

タリーであります。我々はこの碑の建立実現へ総力を結集したいと思います。

懇親会では全員が満面に笑みを浮かべ、歓声を上げながら一年ぶりの再会を喜びました。会場には「つけあげ」や川辺の「牛刺し・鳥刺し」も山盛りで、舌鼓を打ちながら故郷の味を噛み締めました。宴たけなわの中、恒例の「関東さつま南の会」の連中による「おはら節・はんや節」などが飛び込んできました。多数の会員も輪に入って踊りました。

次いで、全員の集合写真や卒業年次別の写真を撮りました。集合写真は今年発行の同窓会名簿に協賛広告(五万円)として掲出します。会場では広告のカンパとして三万五千五百円が集まりました。

最後になりましたが、カンパに対する御礼を申



平成17年3月12日 陵寿会



平成17年3月12日 陵寿会

しあげると共に来年もより多数ご参加下さるようお願い申し上げます。

【註】陵寿会は、東京同窓会員で六〇歳以上の人の集まりであり、毎年三月に三州倶楽部で交歓会を開いています。

東海同窓会

幹事長
吉利 用邦
(昭和41年卒)

東海同窓会は十月三日賀状園で開かれました。川辺から西元校長先生、前野会長、長野先生が出席されました。さらに、元東海同窓会の宮原さんも知覧から駆けつけてくれました。

東海同窓会は今年で一七回目を迎えました。参加者は二九名でしたが、その中には大学生二名、福井と千葉から一名ずつ参加のフレッシュな会でした。

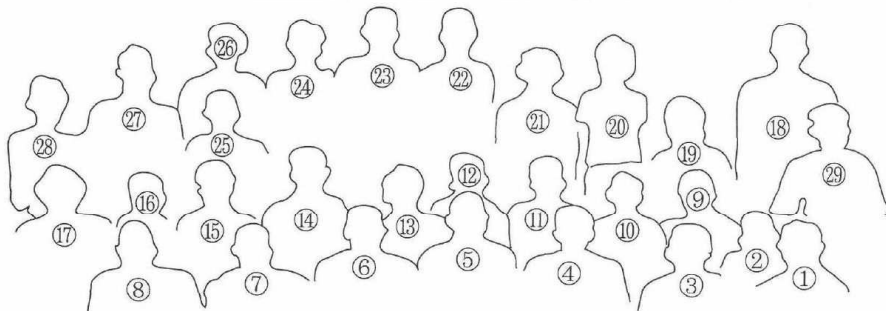
会は終始和やかな雰囲気の中で進み、三時間ほどの時間があっという間に過ぎてしまいました。それぞれ別れを惜しみつつ、来年の再会を約束して散会しました。

このところ、東海同窓会では新しい方の加入がなく、寂しい思いがしていました。今年は新しい

方が加入し、この輪が大きく広がって欲しいと願っています。
名古屋では万博が開かれます。都合がつけば、東海同窓会にも顔を出して下さい。
大歓迎いたします！

写真氏名

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 長野 守雄 | 11 神野 幹彦 | 21 江田 和子 |
| 2 二反田 統男 | 12 加治 佐司 | 22 西 剛志 |
| 3 日置 宏輔 | 13 緒方 美佐子 | 23 中 蘭 修巳 |
| 4 前野 政美 | 14 西田 祥蔵 | 24 米山 剛 |
| 5 西元 辰宏 | 15 上野 朝子 | 25 川野 武弘 |
| 6 飯野 布志夫 | 16 宮原 楊子 | 26 上妻 裕治 |
| 7 山神 実 | 17 千葉 敏江 | 27 村田 憲代 |
| 8 野村 登美夫 | 18 佐多 和夫 | 28 村田 美子 |
| 9 木野村 美千代 | 19 亀川 あや子 | 29 吉利 用邦 |
| 10 太田 いく子 | 20 丸野 洋子 | |



関西同窓会

岩屋口大造
(昭和39年卒)

二〇〇四年度川辺高校
関西同窓会は九月十二日

(日) 地下鉄御堂筋線の
心斎橋駅近くのハートン
ホテルにて四十二名の参
加を得て盛大に開催され
ました。ご来賓として本
部同窓会より前野政美会
長、母校から昨年に引続
き西元辰宏校長先生、長
野守雄先生(昭和四十二
年卒)、恩師の永山慎一
郎先生(昭和四十五年度
から五十一年度まで英語
担当で在籍)をお迎えし
て開催されました。

池田会長の挨拶に続け
て活動報告、会計報告が
行われ、昭和二十六年卒
業木原康男さんの乾杯の
発声で開宴の運びとなり
ました。

西元校長先生から学校
の現況をご紹介頂き、特
に服装、挨拶など規律を
守ることを重点に文武両

道の面から指導している
との紹介がありました。

また、柔道部顧問をされ
ていた時の平成九年度卒
業生二名(古市真弓さん、
中村寿子さん)、長野先
生の教え子の二名の学生
(有村奈保美さん、上拾
石みほさん)も参加され
ご挨拶の時、紹介下さい
ました。

続いて前野会長より、
どこの同窓会に参加して
も卒業生の母校を思う情
熱にいつも圧倒され、同
窓生の強い連携が感じら
れるとのご挨拶がありま
した。現在、川辺高校活
性化推進事業として成績
優秀な学生を集めるため
同窓会奨学資金を平成十
六年度より開始した点も
紹介されました。長野先
生からは、昨年と同様、
神戈陵精神をパウチにし
たたくさんのシオリをお

土産に頂きました。今年
の夏の高校野球地方大会
で加世田高校に初戦で敗
れた悔しさを秋の大会に
繋げたいので、是非激励
のファックスをいただけ
れば、野球部監督や選手
に直ちに伝えますので宜
しくとのお願いがありま
した。

永山先生からは、川辺
高校を離れた後、また教
師生活を退いた今でも川
辺高校の卒業生との繋が
りが深く、また川辺高校
時代が教師として最も充
実していた時期であった
点も紹介されました。今
回事務局からの強い招待
の誘いに返事はしたもの
の、教え子に会えないか
もしれないと思っていた
ところ、昭和四十七年卒
の小川(日置)雄子さん、
磯田(有村)真由美さん、
昭和五十年卒の折尾(加
治佐)悦子さん、松久保
(塗木)育代さんの四名
にお会いでき、大変感激
されたとのことでした。



宴たけなわの中、集合写真撮影後、全員で旧校歌および新校歌を斉唱し、最後に梅橋副会長による閉会の挨拶と一本締めで一次会として中締めとなりました。

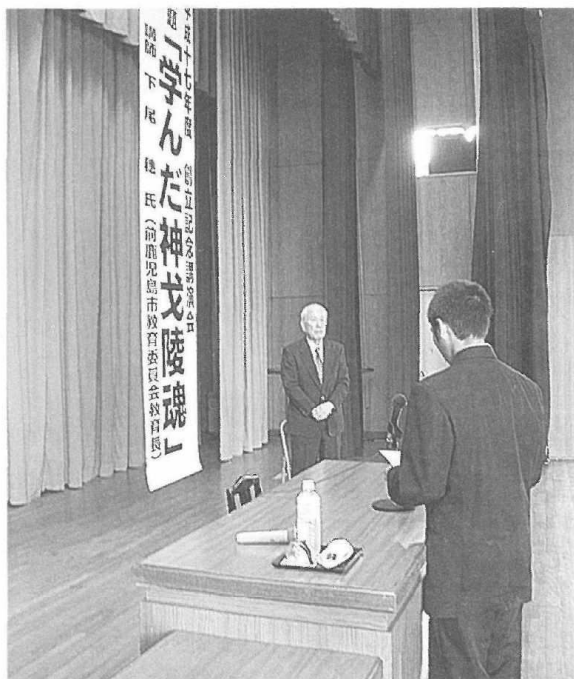
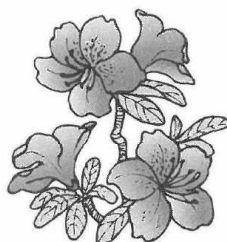
二次会は同じハートンホテルの五階会場で開催され、出席者の約八割の方が参加され、カラオケにて自慢の喉を披露して頂きました。

今年の同窓会では昭和二十九年卒の方が九名も参加され、同窓会でクラス会を兼ねておられ、三次会へ繰り出され団結力のある姿が印象的でした。また、四十五年卒以降の方々が八名も参加して頂き、今後の関西同窓会の若返りのきっかけになるのではないかと期待が持てました。西元校長先生、長野先生の若い方々への呼びかけ、若い世代の恩師である永山先生をお招きしたことの成果と思われます。この場を借

りて厚く御礼申し上げます。

今後とも川辺高校関西同窓会に対して、同窓会本部、母校の先生方のご

指導、ご支援をお願いしますとともに母校のますますの発展をお祈り申し上げます。



平成17年度創立記念講演会

下尾穂氏に御礼を申しあげる生徒会長二宮勇貴君

福岡同窓会

前田 光二
(昭和49年卒)

平成十六年度鹿児島県立川辺高校の福岡同窓会が十月十六日福岡市の中央区天神にある福岡国際ホール一六階で盛大に行われました。

本田正朗氏の司会進行で始まり、上野副会長の開会の言葉に続き、亡師亡友への黙祷の後、南谷会長の挨拶、続いて来賓紹介が行われました。

本部同窓会の園田副会長より本部同窓会の活動報告及び神戈陵教育振興会の募金依頼が有りました。又西元校長より卒業生の進学状況や近隣の高校との比較や在学生の近況報告等が有りました。

福岡同窓会恒例のまず校歌斉唱の決まりにのっとり、旧制中学校校歌一番、二番、高校校歌一番、四番の合唱で景気付けを行い、恩師である慶田

先生の乾杯の音頭で歓談に入りました。

福岡同窓会の手伝いをするようになって五年経ちますが、昨年より総会の案内を出すときに、出欠の葉書に近況を知らせて下さいとの文言を入れましたところ、なかなかの反響があつたと思います。ここで一文を紹介したいと思います。

恩師の松下志郎先生は、近頃体力が落ちて外出を控えているとのメッセージを、長岡驍先生は椎間板ヘルニアの手術をしまったとのメッセージを頂きました。

大正十五年卒業の大先輩からは「元氣です、ご盛会に。」との有難い便りを頂きました。メッセージを頂いた方の総数は七三名にのぼり、その一言一言に、鹿児島第四中学

校、県立川辺中学校、県立川辺高等学校、川辺実科高等学校、県立川辺高校で過ごした方々の思いが一杯詰まっております、全部紹介出来ないのが残念であります、皆さんの母校の発展と福岡同窓会の発展を祈っております。

さて、話しは変わりますが、今年は久しぶりに新人の参加が多くて三月卒業したばかりの大学一年生が男子四名女子三名参加されて、各自自分の学校紹介や部活動の報告等をしてくれました。お陰様で例年に無い盛りあがりを見ました。

最後にもう一度高らかに校歌を歌い、万歳三唱を行い、記念写真撮影の後、来年の再会を誓いながら堀内副会長の閉会の言葉で開きとなりました。

母校の益々の発展を祈念して報告を終わります。



宮崎同窓会

松山 輝雄
(昭和34年卒)

平成元年に始まった川
辺高校同窓会宮崎支部総
日は、毎年一月第四日曜
日に催されます。



今年は第一七回、平成十七年一月二十三日ホテルメリージュ(宮崎市)で行われた。

学校、同窓会本部から西元辰宏校長先生、高田政雄副会長、長野守雄事務局長がご出席下さり、お三方からそれぞれ母校の現在の様子を詳しくお伺いでき感激しました。

総会次第の後、開宴、歓談。自己紹介では各々の現況、当時の思い出話で気持は一つになり修学旅行の雰囲気へと盛り上がり、米良充次氏(旧姓寺師、旧中三五期)が校章「知」「徳」「体」の意味について話された後、剣道道具一式他百数十万円相当の寄贈を申し出られるなど正月末の熱い集りとなりました。

最後に、旧校歌、新校歌を各々の青春時代に、そして川辺の母校に届け!との想いを込めて斉唱し、来年の再会を約して閉会となりました。

知覧町役場
神戈陵会

菊永 英勝
(昭和58年卒)

平成十七年六月十六日、知覧町「やなせ」にて、知覧町役場神戈陵会を開催いたしました。

本年も、母校より西元校長先生、大脇教頭先生、長野先生、山口先生、それと同窓会より、森田副会長の出席をいただきました。

知覧町役場神戈陵会は、毎年一回開催されていますが、会員にあつては、昭和三十四年卒から平成十二年卒までの六七名を数え、知覧町役場の約三分の一にあたる職員が川辺高校の同窓生ということになりました。

平成十六年度幹事佐多清文(平成元年卒)のあいさつのあと、西元校長先生より母校の近況報告があり、後輩の皆さんが、文武両道を目指し、部活動にも積極的に取り組み、

各種目で、好成績を収めているという事で参加者一同満足の表情でありました。

引き続き、森田副会長の発声で乾杯し懇親会に入り、出席した会員はもとより、出席いただいた先生方とも交友を深め、それぞれの年代の思い出話に花が咲いていました。また、長野先生からは、手作りの菓をいただきました。誠にありがとうございました。

世の中では、市町村合併が進むなか、知覧町役場もここ数年職員の採用もないわけですが、現在の会員で、知覧町役場神戈陵会を盛り上げていきたいと思えます。また、やがて入って来るであろう後輩たちのためにも会員一丸となって頑張っていきたいと考えています。

平成十七年度については次の顔ぶれで会活動を推進していくことになりましたので、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

【事務局】

知覧町郡六二〇四番地

知覧町役場内

TEL〇九三一八三一二二

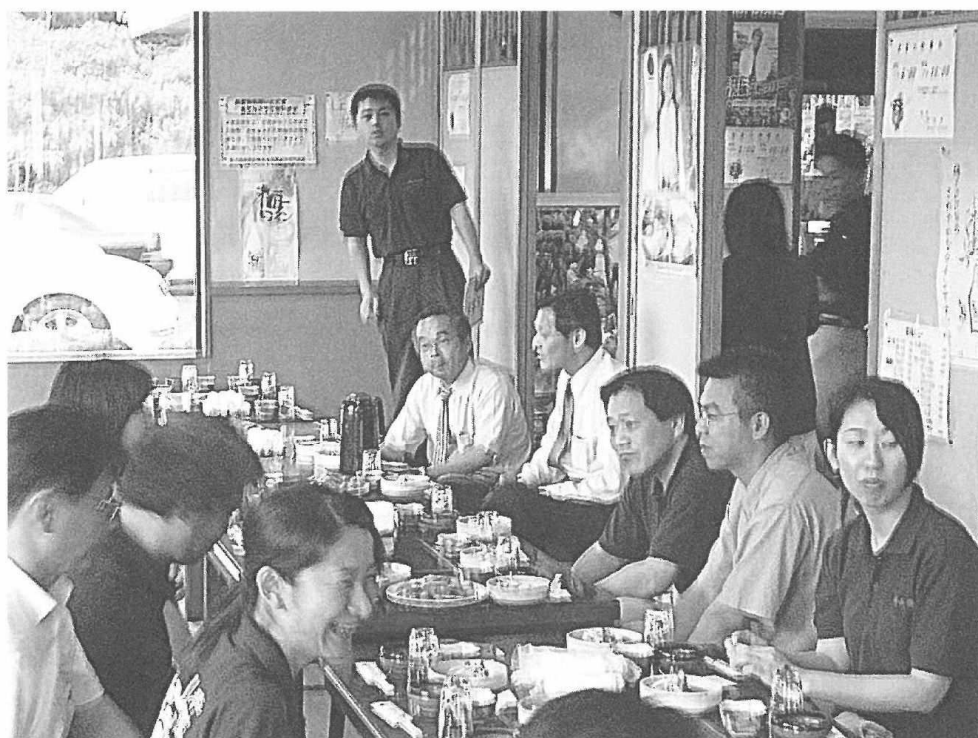
幹事

東垂水克典(平成2年卒)

池田 秋英(平成2年卒)

永崎 明子(平成5年卒)

変更がありました。



川辺町役場 神戈陵会

上野 利美

(昭和52年卒)

平川十七年度川辺町役場神戈陵会並びに懇親会を、六月九日に川辺町万之瀬川沿いにあります「ふく美」において開催しました。

我々神戈陵会は、昭和三十九年(第十六回)卒より平成十二年(第五十二回)卒の一〇名で構成されています。川辺町役場神戈陵会は昭和五十六年度に発足し、早いもので今年で二十五歳の歳月を数え四半世紀の歴史を積み重ねることになりました。

総会は、平成十六年度下園隆春会長(昭和四十五年第二十二回卒)のあいさつの後議事に入り、十六年度事業報告・収支決算報告、十七年度事業計画・収支予算について意見が交わされました。母校及び母校の行事に対

する援助、川辺高等学校同窓会運営への協力、これからの神戈陵会のあり方等、川原三健(昭和五十年第二十七回卒)会員の議事進行のもと全会一致で承認されました。総会には、川辺高校から前田浩事務長にも出席していただきました。

引き続き総会終了後の懇親会では、同窓会長の前野政美氏、母校より西元辰宏校長、大脇友治教頭、前田浩事務長、長野守雄、山口久信先生等、多数の出席をいただきました。

前野同窓会会長からあいさつのなかで、「母校に対する地域住民の関心と理解を高められるようこれからさらに、川辺町役場神戈陵会には頑張つてほしい」との激励の言葉がありました。

西元辰宏校長先生からは、あいさつのなかで「教職員一丸となつて生徒の夢実現に向かつて支援する」との力強い言葉をいただきました。

また、勉強だけでなく部活においては、文武両道を目指し積極的に取り組んでおり、川辺地区高等学校春季大会においては、男子・女子バレーボール、男子柔道(団体)、男子バスケットボール、男子バトミントン等が優勝するという優秀な成績を収めており、野球、男子・女子剣道・サッカー等で準優勝の成績を収めて頑張っているとのあいさつをいただきました。

私の持っている新聞の切り抜きに「懸命の投手戦、相譲らず」、「熱闘一八回、川辺サヨナラ」、「ゼロ行進 三時間十一分」と大きな見出しがでている。昭和五十八年の第六五回全国高校野球鹿児島大会で、川辺高校と出水学園

がベスト8をかけた闘いの記事である。この試合延長18回の末サヨナラ勝ちし、二一年ぶり六回目のベスト8入りを果たした新聞記事であります。だいぶ前の記事でありましたが、川辺高校の生徒には、部活においても夏の大会でさらに良い成績を残せるよう、夢に向かって頑張つてほしいと期待します。

懇親会は、出席者一同楽しく飲み語り合い、恩師との思い出話に花が咲いている会員もいました。また、長野守雄先生(昭和四十二年卒)には、今年も手作りの栞をいただきました。ありがとうございました。懇親会のなかで話もはずむなか、終わりの時間も近づき出席者一同校歌を歌い、最後に今年度で勇退される母校卒業の前田浩事務長(昭和三十九年卒)が閉会のあいさつを行い、盛会のうちに終了できました。

我々川辺町役場神戈陵会は、地元で元気で活動しています。平成十七年度は、芝原仁(昭和四十五年第二十二回卒)会長を中心に会員一〇名一致団結してまいりますので、よろしく願います。

川辺町役場

神戈陵会事務局

川辺町平山三三三四

川辺町役場内

TEL〇九三―五六―一一二

会 長 芝原 仁

(昭和四十五年卒)

副会長 有水 秀男

(昭和四十六年卒)

桐木平ちづ子

(昭和四十八年卒)

委 員

50代 内村 光二

(昭和四十七年卒)

二木 みつ子

(昭和四十二年卒)

40代 内原 広行

(昭和五十五年卒)

伊地知たみ子

(昭和五十年卒)

30代 古市 俊博

(昭和五十九年卒)

坂口 耕作

(昭和六十年卒)

20代 上久保貞伸

(平成七年卒)

内門 澄香

(平成七年卒)

書記会計 上野 利美

(昭和五十二年卒)

会計幹事 網屋多加幸

(昭和五十二年卒)

森 栄子

(昭和四十七年卒)

川 辺 同 窓 会

橋口 和久
(昭和57年卒)

恒例の川辺高校の同窓会が、平成十六年八月十四日、川辺町の「ふく美」で開催されました。

今年の幹事担当は、男性が昭和五十七年卒、女性には平成三年卒で、当日に向けて準備しました。

幹事は総会後の懇親会等を任されており、会場の確保や、当日の出席者を募り多くの方に参加して貰うことが役割でした。幹事会では、同窓会名簿をもとに同級生への呼びかけや、川辺高校同窓会評議員等の協力を貰い、多くの方への呼びかけを行いました。しかし今回は、八月十四日の開催になったため、お盆の行事や他の同窓会と重なってしまい参加者を募るのに苦労しました。

当日の参加者は約百名でした。総会は、同窓会

長の挨拶・十五年度の各種報告と十六年度事業計画、予算等が協議されて全て承認されました。

総会に引き続き懇親会へと移り、鹿児島同窓会・木原彬成事務局長の乾杯の音頭で幕を開けました。酒が入ると場も和み、久しぶりの再会に話しが弾んでいる光景があちこちに見受けられました。飛



「金二七会」 鹿児島大会報告

別府 哲男
(昭和27年卒)

び入りの余興や旧校歌・校歌斉唱など宴も盛り上がりつつありました。また、昭和五十七年当時在籍された恩師の山元久夫先生にも参加して頂き、

当時を懐かしむことが出来ました。最後に、次年度幹事代表の力強い挨拶に、来年の同窓会での再会を約束して幕を閉じました。

昭和二十七年卒業の同窓生が一堂に会すること一二回を迎えた。これまで、博多、奈良、東京と各地において回を重ねてきた。それぞれの地に居住し、活躍している諸氏の肝煎りで会を成立させてきた。私達の同窓生は、たまたま順調に生きて来ることの出来た人が早くも「古稀」を迎えた世代の者たちである。太平洋戦争に敗れた時が小学(当時は国民学校)六年生で、敗戦の混乱期に当り、外地(当時は支那、満州、朝鮮、台湾と呼称)に進出していた子女が帰

国してきた時代である。学校の制度も変わり、男女共学になり、思想も自由になり、同じように私達が教えを受けた先生方も敗戦後生き延びるために各地より縁者をたよりに、旧制川辺中学校や旧制女学校に生活の場を求めて来た方たちもおられたので、優秀な先生が多かった。また、私達の同窓生といっても、年齢には、かなりの幅があるし、話題豊富で話が尽きない。

第一一回東京大会で次は鹿児島大会をやるとうとういうことになり、上床光

広氏が会長を引受けてこられて、鹿児島在住の諸氏に集合の命令が掛かったのは平成十四年九月二十日であった。同年十二月六日(金)「ホテル・ウエルビユー」で、会場の下見を兼ねて鹿児島に在住している同期生の忘年会を開いた。何かと忙しい中であつたが、二二名が集まつた。

以来、「同窓会の内容」、「宿泊についての条件」、「案内状の文章作成、印刷」、「宛名書き、印刷文の封入・投函」、「返信の集約」、「第2回目案内状の検討及び発送準備」、「開催前、開催当日の係分担」、「大会資料の綴じ込み、封入」等に係わつた人々が延べ一〇〇名余り、本大会の実現に掛けた日数が一二日間余で、特に大会実現のために尽瘁下さった人が、会長の上床氏、池田さん、山元氏であり、心より感謝の意を表したい。



本大会で特記できることは、元音楽部に在籍していた人達の活躍であろう。山神氏はいつも庶務的なことについて活躍して下さるが、今回は大平氏とコンビで司会役をしてくださった。相良さん(旧姓竹泊、静岡県に在住、出席予定であつたが急に都合が悪くて欠席)は二次会に経済的援助をしてくださったようである。校歌については別府が担当、楽器演奏が出来ないので、川辺高等学校創立一〇〇周年記念の時に作られた「東京混声合唱団の演奏CD」を利用させてもらい、代わりに「旧制川辺中学校校歌」と「鹿児島県立川辺校等学校校歌」の二つの歌詞について作詞者がどのようなことを考えて作詞されたのか、行間から探り、解釈を試みた。独断に陥らないように上床(文学)、塗木(歴史)、山元(文学)の各氏から監修を得た。

尚、ボランティア関係では、野球の白澤氏が妹さんを通して和菓子差し入れをして下さり、加世田より加勢に來られた方よりお茶菓子戴いたり、相撲部の中村博明氏がワゴン車を出して運送係の労を提供して下さったのも有り難かつた。又、小耳に挟んだところでは、幸い実現する事こそ無かつたが、急病人が出たときの為に救急病院の手配をして下さった方(加治佐氏)も居たようである。

回を重ねるたびに皆勤の人(鰺坂 真氏)もいる中で、出席したのは高校を卒業して以来、初めてという人もあり、皆で再会を喜びあつた。

有志によるスピーチの部では、世話人代表の出来巽氏から歓迎の辞の後、たまたま米国より帰国の宮内壮明氏(渡米後、書道に目覚めて現在、師範代として活躍中)の「昨

今の米国事情について」の話があった。本田雄郎氏からは関東同窓会の報告があり、自衛隊で高官の地位まで出世した桑畑繁貞氏は今昔について話された。畠野洋夫氏はオリンピック、特に陸上長距離走に関する話があり、更にアテネ五輪に野口、土佐、坂本の三選手が選ばれた妥当性にも触れておられた。

個別の部では、各自が酒席のテーブルを適宜歩き回って旧交の挨拶をし、盃を交わしながら、心だけは純粋な少年・少女に戻り、時の過ぎるのを忘れて、歓談した。

(以上 別府記)

翌朝は七時から朝食、各自の日程に従って行動を開始する。ゴルフ組十二人は車三台に分乗して九時には目的地の横川へと出発し、揖宿観光を諦め切れなかった関東地区帰りの女性たちは、中村博明君のワゴン車で山川

のフラワーパークを見物、昼食は揖宿南中近くの長寿庵でそば料理を食べ、午後三時頃には無事桜島組と合流した。

フラワーパークでは、中南米原産のブーゲンビリア各種が咲き乱れ、赤い花がブラシ状のキンポウジュを眺め、カラフルなランタナの生け垣沿いを散策し、ペルー原産のジャカランタ(花はブルー・白)まで鑑賞できた。

桜島直行組はタクシーに分乗して桜島棧橋に向かい、正午前には国民宿舎「レインボー桜島」に到着、予約済みの昼食を摂る。午後一時から目的のグランドゴルフ開始。素人の多い集団を四グループに分け、経験者がリーダー役につく。山神三郎君がルールと具体的技法を実技で説明し、各グループが練習開始、ある程度理解できた時点でプレー開始。このコートは管理不

足か、全体的に雑草が生い茂り、スタートマットも草に埋もれている始末、普通三打でゴルフする五〇メートルホールに八打もかかった。クラブを振っても数メートルしかボールは動かず、プレーを断念する女性も出た。上手下手もなく、わいわい言いながらボールを追い、疲れ果てて二ゲームでプレーを打ち切った。皆さんの結果を確認することもなく、ただ楽しさだけが残った。

夕食はゴルフ組も合流し、総勢三四人が宴の席につき、頃合いを見て余興も始まる。カラオケ好きの有蘭重夫君を司会者に推し、彼の名司会で男女が交互にステージに立ち、宴はこの上なく盛り上がった。舞台慣れた大迫ゆみ子さんが口火をきり、尻ごみする女性たちを次々に私が舞台に押し上げ、女学校の合唱しながらに唱歌を合唱する

場面も出現した。中禮君はインドネシアの歌でノルマを果たした。最後は司会の有蘭君にも歌ってもらい、私まで歌うことになった。

ゴルフは前年優勝し、世話役だった中之蘭修吾君が体調不良でプレーできず、実力派の横峯君が優勝したとの報告があった。(以上 山元記)

五月二十八日(月)に準備委員の反省慰労会が開かれた。折りあしく出席できない人が数名居られたが、一三名が「華連」に始まり、全二七会鹿児島大会を締めくくった。終了後会長をはじめ委員各位宛にお礼状が届けられた由であるが、小生にも中禮俊則氏より「総会は本当に楽しかった。有難う。」とあり、赤沢通信(中禮氏が伊東市赤沢より定期的に発信する通信文)にも本大会に関する記述があるので、以下に抜粋文を紹介し、報告を

終わりたい。

「さて、五月後半は郷里鹿児島に帰り、高校卒業後五十二年を数えた同期生の会に出席。古稀を越えた往年の少年少女が、昔日の面影を探りながら、焼酎をあおり、泡盛をなめて二度と帰らぬ歳月を反芻しあったのです。ゴルフに打ち興じ、囲碁に鳥鳶驚の知略を争い、いまや煙が薄くもやるがごとき桜島に渡って、肩を組み蛮声を張り上げて青春の情熱を追い求めては見たものの、翌朝目覚めると玉手箱を開けてしまった浦島太郎にも似た老いの姿が鏡に映っていた。現実には隠しようがありません。しかし、仲間と打ち興じる間、青春は確かに甦っていたのです。人は失われた時を求め合う情熱がある限り精神の若さを保てるのかもしれない。」(中禮氏は川辺高校時代の文芸部長)

鹿児島同窓会

木原 彬成
(昭和36年卒)

平成十七年度の鹿児島

同窓会神戈陵のつどいが

七月三十日(土)にジェイ

ドガーデンパレスで九〇

名参加のもとに開催され

た。来賓として川辺同窓

会前野政美会長、母校か

ら西元辰弘校長、大脇友

治教頭、前田浩事務長、鮫

島宏規PTA会長、長野

守雄、山口久信先生、吉留

康貴ジェイドガーデン社

長の参加をいただいた。

今年から、つどい案内

状と同時に鹿児島同窓会

会報を送付して会務報告

・決算報告と監査報告を

行った。その目的は、懇

親会の時間をより長くし

たいとの池田会長の提案

によるものである。また、

受付と進行も卒業年度順

にする提案があり、今回

は昭和二十七年卒の方々

にお願いした。上床光弘

幹事を中心につどいを運

営した。

出来栄さんの開会のこ

とば、亡師・亡友への黙

祷、そして、黒川久子・

上野千代子師弟お二方に

よるなぎなたの祝演舞と

続いた。なぎなたの型の

披露が五本あり、つぎに、

荒城の月の曲による見応

えのある舞を見せていた

だった。

前野政美同窓会会長は

祝詞の中で、子ども

の数が増減して

きているので、今

後のことを考えな

がら地域の発展に

寄与する川辺高校

として盛り上げた

いと思うので、学

校のほうにも目を

向けてほしいと述

べられ、西元辰宏

校長は、神戈陵教

育振興会への協力

に対するお礼と、



進学状況や、十七年度の
入学者は定員を満たした
こと、地区大会では、ほ
とんどどの部が、一・二位に
入賞していること、ボラ
ンティア活動でメダカの
育成に力を入れているこ
と、地域に愛される地域
の学校として頑張ってい
ることなどの現況報告を
交えた挨拶をなさった。

う。苦楽を語り、先輩・後
輩のつながりを話し合う
のが同窓会である」との
開会のあいさつがあり、
開演となった。昭和十五
年卒の楠元薩男さんの力
強い乾杯の発声により懇
親会が始まった。昭和三
十五年卒の柚木清紀さん
と、昭和二十八年卒の大
迫晶子さんが日本舞踊を
披露して、懇親会にはな
を添えた。その間、参加
者は面々の思い出に話を
弾ませ旧交を深める姿は、
神戈陵下で生きた時代に
戻っていたようだった。

来賓として出席してい
ただいた皆様、本当にあ
りがとうございました。

盛会のうちに鹿児島同窓
会神戈陵のつどい(懇親
会)を無事終了できまし
たことを、感謝申し上げ
ます。

今年は、昨年度よりも
わずかなではありますが、
参加者が増えたこともご
報告いたします。

最後に母校のますます
の発展を祈念いたします。



一 剣道部へ防具等の寄贈

平成十七年四月二十五日(月)午前十時より、川辺高校武道館で剣道部へ防具等の寄贈式が行なわれました。これは、平成十七年一月二十三日(日)、ホテルメリージュで行われた宮崎同窓会の席上で、金峰町出身で宮崎市の米良企業グループ会長米良充次氏(旧姓寺師、旧制川辺中三十五回、昭和十四年卒)が剣道具の寄贈を申し出てくださったというところが実現したものです。

御寄贈いただいたのは、胴、竹刀、剣道着や、「川辺高校」と自書を印字した手ぬぐいなど二百点余り、百数十万円相当の品々でした。

寄贈式には前野同窓会長、PTA会長も出席の

事務局より報告

事務局長 長野 守雄

上、米良会長自ら目録と寄贈品を生徒に贈呈下さり、剣道部員十四名の前で激励の挨拶をいただきました。最後に主将の太鼓真之輔がお礼を述べ、式を終了いたしました。

二 創立記念講演会の講師を囲む会

本校では創立記念日に「各界で活躍しておられる先輩諸氏を講師としてお招きして講演会を開催し、生徒に母校への愛着心を深めさせ、誇りを持たせるとともに、自らの生き方に思いを至らせ、進路目標を達成すべく意欲の高揚を図り、価値ある高

校生活を創造させ、充実した高校生活を送らせる」という趣旨に基づき、記念講演会を毎年開催しています。

本年度は、県立鶴丸高校や県教育次長などを歴任され、本県教育界に長年携わってこられた下尾穂氏(旧制川辺中第四十三回、昭和二十一年卒)をお招きし、「学んだ神戈陵魂」という演題で講演していただきました。

旧制中学の話、氏の在学当時の寮生活や学生生活の話、鶴丸高校校長時代の話、そして学ぶということの重要性を説く話で締めくくられました。

御講演の後、川辺在住の同期生七名、同窓会副会長、PTA副会長二名、学校職員十三名の計二十四名で講師を囲む懇親会を「ひろせ」で行ないました。所用で出会できなかった前野同窓会長と菊野前同窓会長からは会への援助をいただき、賑やかで和やかな一時を過ごしました。

三 川辺町役場神戈陵会

による高校への援助
川辺町役場神戈陵会が

らは、毎年二十万円援助していただいています。

「財団法人神戈陵教育振興会」事業の財源が不足していた時は、この援助金も財源に充てていました。今年度は、学校に残る品物ということで、体育大会の優勝旗とカップ、大型のプリンター、そして玄関入口横に設置する芸術品展示板を購入していただきました。九月の始業式で、川辺町役場神戈陵会会長より西元校長へ優勝旗とカップの贈呈式を行う予定です。

川辺町役場神戈陵の皆様には川辺同窓会にも多数出席していただいております、事務局といたしましては大変感謝しています。

四 その他

(1) 東京同窓会からは毎年卒業生全員にボールペンをいただいています。

(2) なぎなた部の国体(埼玉)やインター

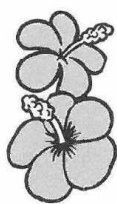
ハイ(千葉)出場に対して、東京同窓会から応援等も含めて物心両面に渡る援助をいただいています。

(3) 六月十九日(日)音楽部吹奏楽団定期演奏会へ、東海同窓会長の飯野布志夫氏が二万円を援助してくださいました。

(4) 本の寄贈等
◎前橋松蔵さん(高校二回卒・現鹿児島国際大非常勤講師)より『金十丸、奄美の英雄伝説』

◎安田耕作さん(旧制中四三回卒)より『昭和のあけぼのわけエーたい』
◎中釜作治さん(高校一回卒)より

『私本太平記』七巻
『竜馬が行く』六巻
『坂の上の雲』八巻
『翔ぶが如く』八巻



川 辺 高 等 学 校 同 窓 会

平成16年度 決 算 書

(H.16.8.1~H.17.7.31)

収入の部

費 目	予 算 額	決 算 額	残 額	備 考
入 会 金	200,000	200,000	0	新入生 1,000×200人
会 費	384,000	382,000	△ 2,000	卒業生 2,000×191人
総 会 収 入	400,000	360,000	△ 40,000	参加費345,000 寄付15,000
繰 越 金	241,578	241,578	0	
受 入 利 息	522	247	△ 275	
雑 収 入	880,000	983,000	103,000	定期の取り崩し、CD
計	2,106,100	2,166,825	60,725	

支出の部

費 目	予 算 額	決 算 額	残 額	備 考
総 会 費	400,000	358,414	41,586	
需 用 費	100,000	59,850	40,150	同窓会報印刷代
通 信 費	10,000	9,550	450	
慶 弔 費	100,000	87,583	12,417	転退職職員へ、香典、花輪
旅 費	600,000	626,951	△ 26,951	東京、東海、関西、福岡、宮崎 他
負 担 金	270,000	250,000	20,000	各地区同窓会へ
高 校 振 興 費	520,000	327,600	192,400	講師謝礼、同窓会奨学金、中高連絡会
雑 費	90,000	114,130	△ 24,130	各地区同窓会へ焼酎、土産代
予 備 費	16,100	0	16,100	
計	2,106,100	1,834,078	272,022	

収入決算額 - 支出決算額 =
2,166,825 - 1,834,078 = 332,747 円 残額は来年度への繰越金

特別基金

平成17年7月31日現在 合計 7,603,802 円

内 訳	利率	預入
4,099,592 鹿児島銀行	0.03	14. 8. 6
3,504,210 鹿児島相互信用	0.05	16. 8. 22

収入の部

平成17年度 予 算 書 (案)

(H.17.8.1~H.18.7.31)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
入 会 金	200,000	200,000	0	新入生 1,000×200人
会 費	396,000	384,000	12,000	卒業生 2,000×198人
総 会 収 入	400,000	400,000	0	
繰 越 金	332,747	241,578	91,169	
雑 収 入	1,040,253	880,522	159,731	定期の取り崩し 104万円、利息 他
計	2,369,000	2,106,100	262,900	

支出の部

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
総 会 費	400,000	400,000	0	同窓会総会
需 用 費	100,000	100,000	0	同窓会報印刷代
通 信 費	20,000	10,000	10,000	評議員、他
慶 弔 費	100,000	100,000	0	転退職職員へ記念品代、他
旅 費	600,000	600,000	0	東京、東海、関西、福岡、宮崎 他
負 担 金	270,000	270,000	0	各地区同窓会へ
高 校 振 興 費	760,000	520,000	240,000	講師謝礼10万、同窓会奨学金56万、中高連絡会10万
雑 費	100,000	90,000	10,000	各地区同窓会へ焼酎、土産代 他
予 備 費	19,000	16,100	2,900	
計	2,369,000	2,106,100	262,900	

各地区同窓会連絡先

事務局 川辺高等学校

TEL 0993-56-1151

〒897-0221 川辺郡川辺町田部田4150

FAX 0993-56-1152

川 同 窓 会	会 副 会 長 前 野 政 美 (高 7) 副 会 長 東 村 眞 宏 (高 13) 副 会 長 中 東 三 子 (高 13) 副 会 長 中 蘭 田 祐 政 (高 14) 副 会 長 深 川 幸 子 (高 15) 副 会 長 川 路 田 子 (高 15) 副 会 長 森 芝 剛 仁 (高 16) 副 会 長 久 保 正 政 (高 20) 副 会 長 高 島 田 毅 雄 (高 22) 副 会 長 鮫 板 宏 一 (高 24) 副 会 長 高 小 野 浩 信 (高 25) 副 会 長 福 倉 元 洋 (高 26) 副 会 長 大 野 美 代 子 (高 32) 副 会 長 菊 東 野 光 守 雄 (高 7) 副 会 長 本 田 雄 郎 (高 7) 副 会 長 辰 元 房 子 (高 11) 副 会 長 鰭 坂 悟 郎 (高 15) 副 会 長 足 立 元 公 郎 (高 37) 副 会 長 峯 川 平 悦 郎 (高 5) 副 会 長 川 野 守 雄 (高 19)	鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 両 添 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 永 田 加 世 田 市 川 畑 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 今 田 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 田 部 田 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 中 山 田 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 平 山 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 上 山 田 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 田 部 田 鹿 児 島 県 川 辺 郡 知 覧 町 西 元 鹿 児 島 県 川 辺 郡 知 覧 町 宮 鹿 児 島 県 川 辺 郡 知 覧 町 西 元 鹿 児 島 県 加 世 田 市 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 両 添 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 小 野 鹿 児 島 県 川 辺 郡 平 山 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 下 山 田 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 田 部 田 鹿 児 島 県 川 辺 郡 川 辺 町 平 山	(川 辺 同 窓 会 事 務 局) ☎099-267-6839
東 同 窓 会 陵 寿 会	会 副 会 長 本 田 雄 郎 (高 4) 副 会 長 辰 元 房 子 (高 9) 副 会 長 鰭 坂 悟 郎 (高 9) 副 会 長 足 立 元 公 郎 (高 10) 副 会 長 峯 川 平 悦 郎 (高 23) 副 会 長 川 野 守 雄 (高 24)	東 京 都 江 東 区 南 砂 神 奈 川 県 鎌 倉 市 笛 田 埼 玉 県 新 座 市 管 沢 横 浜 市 港 北 区 日 吉 本 町 深 谷 市 上 野 台 神 奈 川 県 相 模 原 市 若 松 東 京 都 千 代 田 区 飯 田 橋 2-3-2 盈 進 社 内	(兼 東 京 同 窓 会 事 務 局) ☎03-3262-3471
東 同 窓 会	会 副 会 長 飯 野 布 志 夫 (高 3) 副 会 長 二 反 置 統 宏 (高 7) 副 会 長 吉 利 田 宏 用 (高 10) 副 会 長 江 田 和 邦 子 (高 18) 副 会 長 江 田 和 邦 子 (高 17)	名 古 屋 市 千 種 区 自 由 ケ 丘 名 古 屋 市 北 区 大 杉 愛 知 県 愛 知 郡 長 久 手 町 岩 作 三 ケ 峯 愛 知 県 岡 崎 市 美 合 新 町 20-3 愛 知 県 春 日 井 市 東 野 新 町	(東 海 同 窓 会 事 務 局) ☎0564-52-0376
関 同 窓 会	会 副 会 長 池 田 寛 弘 (高 6) 副 会 長 梅 橋 津 由 美 子 (高 6) 副 会 長 河 津 屋 美 子 (高 15) 副 会 長 岩 屋 園 大 義 (高 16) 副 会 長 茶 園 文 (高 21)	大 阪 府 東 大 阪 市 楠 根 奈 良 県 生 駒 郡 三 郷 町 三 室 大 阪 市 旭 区 太 子 橋 兵 庫 県 宝 塚 市 仁 川 月 見 ケ 丘 大 阪 市 淀 川 区 新 高 6-16-16	(関 西 同 窓 会 事 務 局) ☎06-6397-5788
福 同 窓 会	会 副 会 長 南 堀 谷 知 成 勉 (高 13) 副 会 長 堀 上 野 修 一 (高 19) 副 会 長 南 谷 洋 一 至 (高 20) 副 会 長 南 谷 洋 一 至 (高 26)	福 岡 市 城 南 区 七 隈 福 岡 市 城 南 区 東 油 宗 像 市 大 谷 前 原 市 大 字 高 田 271-3 ロイヤルマンション 周 船 寺 西 403	(福 岡 同 窓 会 事 務 局) ☎092-324-7705
熊 同 窓 会	会 副 会 長 野 中 實 男 (旧 中 39) 副 会 長 今 宮 治 文 (旧 中 38) 副 会 長 宮 酒 清 光 (旧 中 42) 副 会 長 梅 橋 光 郎 (高 2) 副 会 長 丸 野 豊 藏 (高 15) 副 会 長 丸 野 真 一 (高 34)	熊 本 市 黒 髪 熊 本 市 保 田 窪 本 町 熊 本 市 高 平 熊 本 市 上 ノ 郷 町 熊 本 市 山 室 菊 池 郡 西 合 志 町 須 屋 1733-31	(熊 本 同 窓 会 事 務 局) ☎096-242-4523
宮 同 窓 会	会 副 会 長 大 坪 學 民 (高 3) 副 会 長 田 代 和 也 (高 3) 副 会 長 黒 木 和 也 (高 4)	宮 崎 市 丸 山 宮 崎 市 花 ケ 島 町 水 町 宮 崎 市 下 北 方 町 塚 原 5701-6	(宮 崎 同 窓 会 事 務 局) ☎0985-24-7449
鹿 同 窓 会	名 譽 会 長 片 平 可 也 (旧 中 41) 副 会 長 池 牧 恭 弘 子 (高 1) 副 会 長 小 椎 原 耕 一 (高 3) 副 会 長 東 大 迫 洋 晶 一 子 (高 5) 副 会 長 大 窪 田 子 子 (高 5) 副 会 長 窪 松 マ リ 子 (高 6) 副 会 長 木 原 中 康 彬 政 (高 13) 副 会 長 田 森 吉 實 (旧 中 44) 副 会 長 今 森 政 實 (旧 中 41) 副 会 長 今 森 政 實 (旧 中 43)	鹿 児 島 市 鳴 池 鹿 児 島 市 加 治 屋 町 14-3 鹿 児 島 市 宇 宿 鹿 児 島 市 皇 德 寺 台 鹿 児 島 市 唐 湊 鹿 児 島 市 草 牟 田 鹿 児 島 市 照 国 町 鹿 児 島 市 紫 原 鹿 児 島 市 下 福 元 町 鹿 児 島 市 紫 原 鹿 児 島 市 宇 宿	(鹿 児 島 同 窓 会 事 務 局) ☎099-226-0118
加 世 田 地 区 同 窓 会	会 副 会 長 上 東 書 三 (高 13) 副 会 長 原 口 哲 三 (旧 中 31) 副 会 長 崎 上 大 教 夫 (高 2) 副 会 長 崎 上 大 教 夫 (旧 中 44)	加 世 田 市 川 畑 11105-3 日 置 郡 金 峰 町 宮 崎 川 辺 郡 笠 沙 町 片 浦 加 世 田 市 本 町	☎0993-53-2409 (加 世 田 同 窓 会 事 務 局)
知 覧 地 区 同 窓 会	会 副 会 長 松 久 保 正 毅 (高 24) 副 会 長 市 坪 政 昭 (高 18)	鹿 児 島 県 川 辺 郡 知 覧 町 西 元 5594 川 辺 郡 知 覧 町 郡	☎0993-84-0806 (知 覧 同 窓 会 事 務 局)
枕 崎 地 区 同 窓 会	代 表 戸 床 安 孝 (高 10)	枕 崎 市 塩 屋 北 町 21	(枕 崎 同 窓 会 事 務 局) ☎0993-72-6572
結 成 予 定 加 治 木 地 区 同 窓 会 ・ 鹿 屋 地 区 同 窓 会 ・ 川 内 地 区 同 窓 会 ・ 指 宿 地 区 同 窓 会			